社会イノベーション研究
第９巻第１号（259-296）
2014年３月

2014年１月７日掲載承認

雲南省大理州「本主廟」の考察

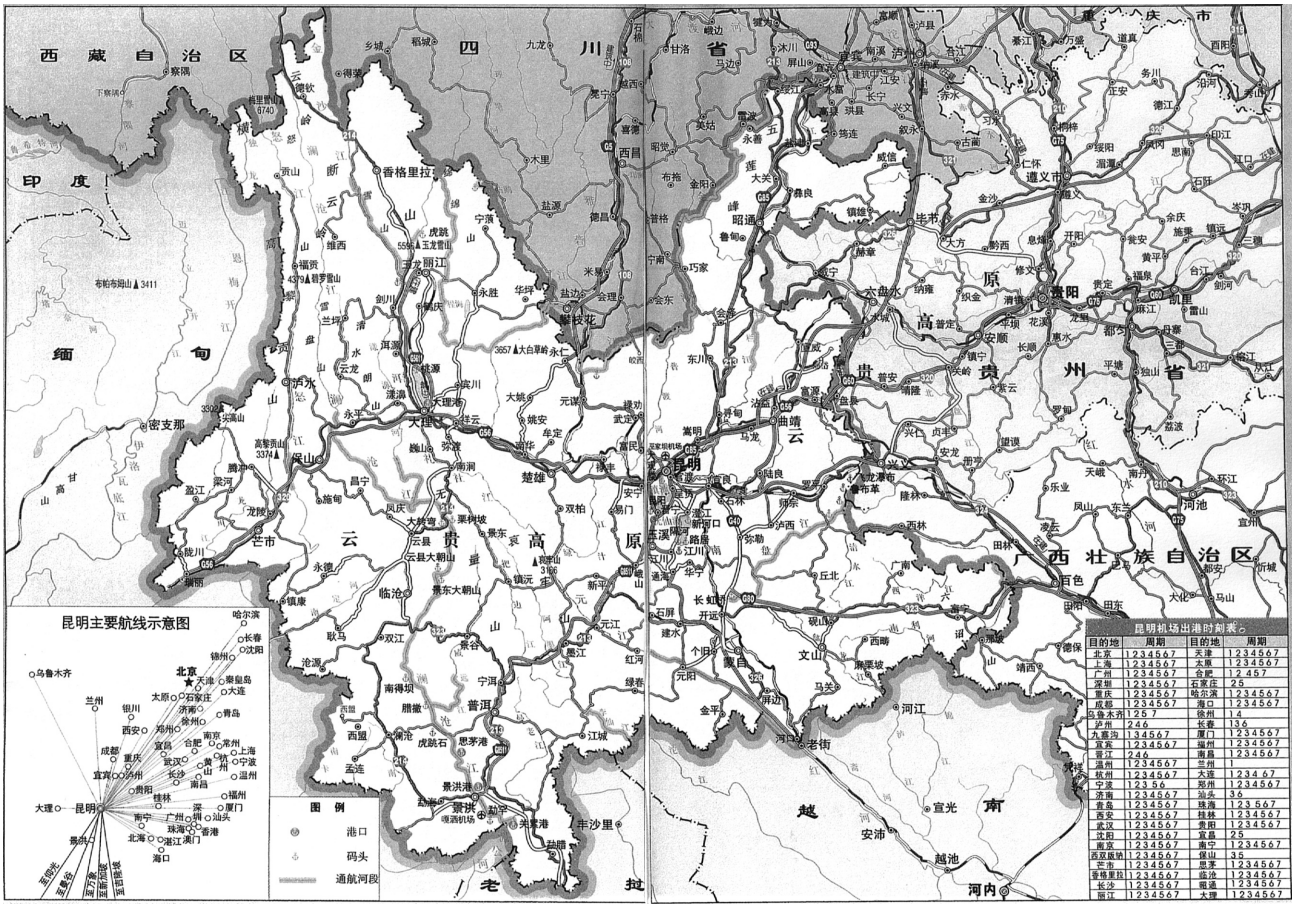
―地区「廟」フィールド・ノート―

山　田　直　巳

はじめに

大理州の民間信仰を観察するうえで非常に重要な位置を占めるのは，おびただしい数の＜廟＞である。これの詳細なる観察と分析なくして，大理州民間宗教の実態を知ることはできない。＜廟＞は小さく区切られた地区の中心に位置し，人々はそこに集合し，あるいは信心し，信仰行事をおこない，あるいはまた娯楽の麻雀を楽しみ，時に学習もする。いわば地域の文化センターのような機能をも果たす場合があり，その利用のされ方も規模も各「廟」によってかなりまちまちで個性的でさえある。仏教寺院的であるが，道教の色彩も濃く，様々な民間信仰が重なり習合し，非常に複雑な様相を呈する。それは当然のことながら＜本主信仰＞ということになるわけで，主祭神はその土地と深く結びついた土着的＜本主様＞が祭られている。

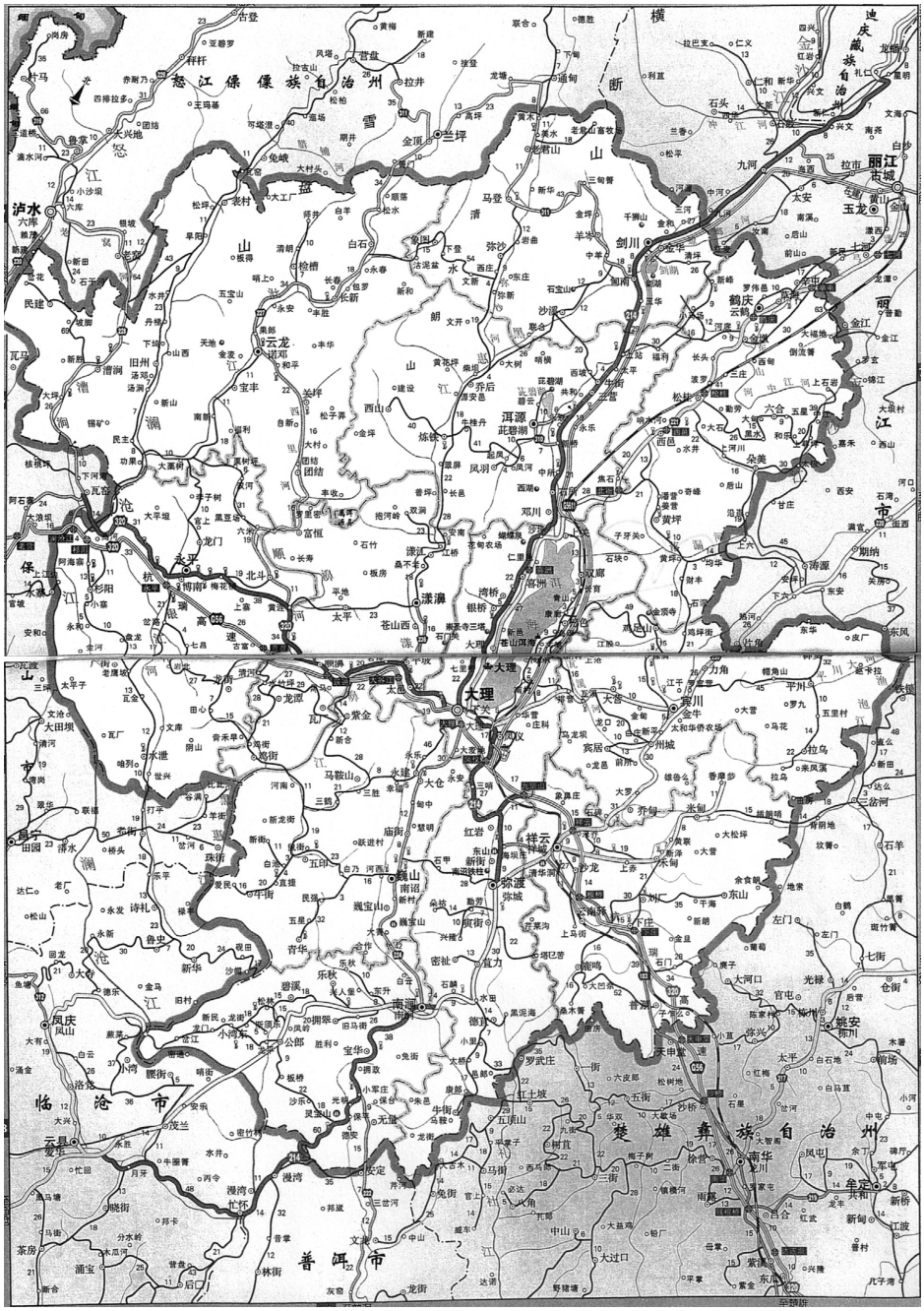
すべての「廟」に共通するのは，本主に奉げる生贄を料理する場所とそれを煮炊きする竈が設えられていることである。それは，本主様に奉げた生贄を，祈願に来た者たちがその場で煮炊き・共食するためである。大きな「将軍廟」などでは，真っ黒に煤けた竈が２つのブロックに分かれ，百近くも連なり，壮観である。そして，そこには膝くらいの高さの質素な木のテーブルがあり，それに見合った高さの小さな椅子が並んでいる。そこがまさに共食の場であり，他の参拝者にも，誰となくふるまうようで，我々調査者も勧められ共食した。



雲南省全図

いわば施餓鬼会の感覚で，ふるまいに参加してくださいといった印象であった。

門の開閉，清掃など「廟」の管理全般をしている老女に導かれ，祈りを奉げ，生贄（ほとんど生きた鶏，たまに豚の頭を持参する人もいる）を奉げ，これを調理し，竈で煮炊きして，この場で食べる。この老女は「蓮池会」の一員で，その「蓮池会」からの推薦・派遣でここに来ているという。「廟」の運営は，上に述べた「蓮池会（女性のみの組織）」によってすべて運営されており，その組織は地区ごとにある。その代表は，古い家系の老女が務め，多くは役割が果たせなくなるまで，――体の自由がきく限りは交代しないようである。以下，各「廟」を訪ね聞き書きした結果を報告する。


怒江傈僳族自治州
迪庆藏族自治州
丽江
大理
洱源
剑川
鹤庆
祥云
弥渡
南涧
楚雄彝族自治州
南华
姚安
永平
保山市
临沧市
普洱市

大理州全図

1. ＜神都＞廟

2011/08/20 喜州鎮「神都廟」訪問。廟域も広大で，建物もどっしりとし，文字通り廟の中の廟という雰囲気を漂わせているが，現在は信仰の衰えか，一特に調査に訪れた日は祭りではない通常日なので，一人はまばらである。大理古城からの経路を記そう。

馬久邑──→松鶴金村──→白塔村──→，ここで反対側の道路に出る，万華渓──→＜白族統三霊＞の碑で曲がる。ここから石畳の道を，一がたがた道で，舌を噛むようにしながらバイク三輪タクシーは進む。1 キロ以上か。突き当たると少し広場があり，三本辻になっている（広場は，三輪タクシーの客待ち場）。

左折れと直進と右折れ。左に折れて 20 分ほど走ると南朝，という本主廟に向かう。直進は慶洞村民委員会，右折れして奥まったところへと進むと神都廟。一と書いたが，直進と右折れの三棟の建物は隣接し，ほとんど横並びである。

右が神都廟，中が径元寺，左が喜洲鎮慶洞村民委員会。広場からは，やや奥まった印象で，両側は高い塀というか壁なので，誠に見通しは悪い。門前に行くまで，どの建物か視界が利かないようになっている。明日も張正軍先生と来ることになっているのだが，まずは一人で廟をよく観察しておくこととした。12:14 までここで建物観察，写真撮影，参拝者の観察をする。

神都の建物は，三つの門をくぐって本廟に到達する。まず外門，右には人と神の像が立ち，左には人と馬の像が立っている。これを入ると，次が虎に乗った神像のある中門，次が本門である。本門には，右に牛の頭をした人の像，左が豚の頭をした人の像。つまり牛頭と猪八戒だ。三つの門は，一直線上にあり，しかも第一門を入った突き当りは壁になっていて，左に大きくずれないと入れない。第三門の突き当りはやはり壁で，今度は右に大きくずれないと入れない。つまり外から直進して本廟の神殿に到達できないようになっている。だから神都の中は，開門状態でも外からは見通せない。沖縄の屏風（ヒンプン）と類似する構造だ。

この廟の右側は工事中であり，ハンマーで叩く音が激しくしている。建設作業中だ。

先にも記したように，こういった廟には，祈願供犠ための人と神との共食を可能にする竈がある。この数が夥しいのであるが，それは吉日が固定していて，

その日に参拝者が集中するからで，それらの人々が一斉に竈で煮炊きをするために沢山の竈が必要となるというわけだ。数えてみると，43 ある。燃やした後の灰を入れるクドがあるから 42 か。本日は通常の日なので，二人の人がそれぞれの事情で願掛けの祈りに来ていた。本日は 8 月 20 日（土）で，祭りというわけではない。

煮炊きをするわけだが，食材をいきなりここで炊くわけではなく，本主様にまず差し上げなければならない。将軍廟でも昨年詳しく見たのであったが，生の犠牲をまず奉げねばならず，それがなすべき最初の重要儀礼であった。

食材を洗面器あるいはボールのようなものに入れ，―多くは鶏と野菜の場合が多い。豚も好まれ，犠牲は一匹，一頭でなければならない。部分ではだめ。したがって，大きな豚の頭がボールに入っているということにもなる。鶏の場合は生きたまま持参するので，殺して血を抜く作業が必要だが，それをやる場所が決まっている。魚も生きたまま持参し，それを調理するわけ。豚の場合は，大きすぎるので廟に来て，その作業をするわけにいかない。で，そこまでの処理を終えた頭を，持ってくるわけだ。観察していると，鶏が非常に多い（昨年みた，将軍廟の場合は，捌いてくれる専門の調理人があり，流しがあった）。

さて，煮炊きができる状態にまで整えた食材を持って，本主様の前に進む。―現在はこういった祭りの日以外に来る人は，祈りのやり方が分からないからであろうが，なにがしかのお金を渡して，―（今年，将軍廟で見たケースは，20 元～50 元。廟の大きさによって違うようだ。将軍廟は，下関という中心都市部の廟であるので，神都廟よりもはるかに大規模），―廟にいる老婆に介助してもらう。老婆が呪文を唱え，唱え終わると最後のところで，「ケーチコ―」という。

（後刻，張先生に伺ってみたが，白族語であって，何といっているか，「ケーチコ―」の意味は分からないとのことであった。本日の最後に訪ねた三塔寺の裏にある「白馬将軍廟」でも，同様な場面が観察され，高校生といった年齢の女子が二人，廟の老婆に介助されながら，祈りを捧げていたが，最後の言葉は「ケーチコ―」であった）。

この祈りの場面には，願い事を書いた紙が封入された，紙の角柱（黄色で，一辺が 4～5cm，長さ 40cm ほどの四角柱）が登場する。廟の門を入ったところに机があり，その椅子に初老の男性がいて，願いを聞き，それを書き，紙の角柱に封入してくれる（料金は 10 元くらい）。祈りの場面では，この角柱に火

をつけ，燃え尽きるまで，できるだけ長く持ち続けなければいけない。熱いからと，早々に落してしまうと，ご利益が薄れる，あるいは無くなってしまう，といわれる。燃えている間，介助のお婆さんは呪文を唱えている。

こうして祈りが終わると，その食材を持って竈の所にくる。何人かで来ているので，お互い何ごとか喋りながら，煮炊きする。出来上がると，近くに1m真角くらいの食卓のような鉄製（木製も）の机があり，この上に並べて食事をする。ここには亡くなった人の霊が来て，一緒に食事する場合もあるとのことであった。祖先の霊が平安であるように祈る場合，願い事が叶うようにという場合もあると。

願い事は，非常に現実的，現世利益的で，―商売が傾いたので……，―これから店を開くのでうまくいくように……，といったものである場合が多い。

（2011年，将軍廟で見たケースは，浙江省で洋服店を開いているのだが，うまくいかない。なんとか起死回生できないか，と祈っているとか。よって，特別の強い願いということか，本主様の像に黄色のマントを贈って，着せかけていた。本人が，助手に助けてもらいながら，マントを着せかけ，胸元を紐で結び，贈呈式終了といった体。この作業中ラッパの演奏がある。もちろん例の紙の角柱や犠牲・食事は当然実施。このマントは数百元ということだったが，作ったのは，この将軍廟の介助の四十がらまりの女性（この人物はまだこの廟の老女役を継承していないが，自分の母がその役なので，次は自分だと。現在は，見習いとのこと。）であった。下関の蓮池会からの派遣で，廟付きの老女はここにいるわけだが，その娘が既に次の介助老婆として席を占めているという印象。例の角柱を燃やす作業，その時の呪文など既に役割を果たしていた。

ここで燃やすことの意義について説明を加えておきたい。紙銭，紙の着物，紙の生活用具などを焚きあげるのだが，その儀礼上の意味はそれらをあの世に送ることであった。いわば銀行口座に振り込むような感覚である。口座に振り込む作業が，廟での焚く作業である。送り盆の行事，あるいは様々な節季に廟の竈で焚く作業は，あの世での祖先の生活を支えるためにそれらを送るという意味を持つものであった。その意味で，現実の儀礼行為とあの世の諸事は直結していたのである。

神都の介助のお婆ちゃんたちとの会話はまことに摩訶不思議。エミュー／ウ―パーシュエ／ケィツァ／ト―ツァ／ツーピーマァマァ／サ―パーツゥア／……などと神像について熱心に説明してくれるのであるが，白族語でほとんど

意味不明。なのに，このおばあちゃんたちといると十分意味が通じるような気がする。少なくとも心は通じるように感じる。少し奇妙な親しみがここにある。まことに不思議である。
＜また参拝者が来た＞
太鼓を叩きながら，時に鉦も鳴らし……ケーチコー……等と言い収める。何度も言うようだが，要するにおばあちゃんは，祈りに来た人の介助しているわけ。このようにやりなさいとの指示。参拝者は例の叩頭＜三度頭を垂れる＞を繰り返す。足を縛られながらも，まだ生きている生贄の鶏がココ，ココ，ケケなどといって，羽をばたつかせ，目を白黒させている，その同じ場で，である。お婆ちゃんは頻りに呪文を唱える。このたびは，二人のおばあちゃんが依頼人の両側に跪き唱えている。一唱え言は続く。……。
願掛けの客は，ややタイミングを外し，ケーチコ―と。やや頓珍漢に感じる。この願掛けの人は，あまり意味が良くわかっていない様な雰囲気。無理に言っているような印象だ。ケーチコ―と。
今度は全ての神像のもとに蝋燭の火をともして歩いている。例の紙の角柱を燃やし，祈りは全て終了。参拝客は，煮炊きの竈の方へ移動。お婆ちゃんはチリ取りで，燃やした角柱の燃えカスを片付け，終了である。
12:14 終了。
喜洲鎮のレストランにて，112 元の昼食。

2.　＜龍泉寺＞周城村

寺と廟が合体したような印象。まさに繰り返し見た神仏混淆・神仏習合である。日本の神が，ここでは本主であるだけ。要するに地付きの神に外来の仏教が乗って来るということだ。構図としては，日本の神仏混淆の様と類似。
寺のような様子はなし。しかし，龍泉寺と明記された扁額が挙がっている。明らかにお寺なのだ。文革があったので，簡単に判断できない部分もあるが，現在の寺の雰囲気からは，信仰の様々が想定されるところだ。たくさんの麻雀客が所狭しと卓を囲み，楽しみ興じている。市民の憩いの場として，有効に機能している。倉山門近くの廟でも見た光景で，教養娯楽施設として，廟が機能しているともいえる。「神都」のように古びた廟と新しい廟といった類別ができるか。あるいは，由緒あるか，そうでないかの差異ということでもあるかも

知れない。しかもここが廟と指定されていない理由・証拠であろうか，例の煮炊きの竈がない。入り口の扁額に「龍泉寺」とあったからか，元来廟ではないことからくるものかも知れない。

現代化した廟は，廟というよりは，文化娯楽施設ということか。信仰といった側面は失われている印象。がらんとしていて，宗教施設らしい雰囲気もない。例のお婆ちゃんたちもいない。蓮池会もここではどうなっているのか，質問しても要領を得なかった。神像，蝋燭，厳かな宗教的設え，そういうものは全くない。文革で総ざらえして，今は全くなくなったか。本主様もここでは不在。寺としてもなんだか，空空漠漠。

しかし，この廟というか寺で，非常に興味深いのは，天井絵。両サイドの廊には，天井絵があり，これが素晴らしい。また縦方向にも絵があるが，人々は全く興味や尊敬を示していないように見える。しかも，最上部の裏手では，寺の修復が着々と進んでいる。数年後には，空家のごとき堂に，煌びやかな先ほど作ったばかりといった，金ぴかの仏あるいは本主様が鎮座ましましていると，いうことであろうか。

3. ＜白馬将軍＞廟

山塔寺の裏にある。昨年，やっと到達できたものの，鍵が下りていて，拝観できなかった廟だ。ここで高校生といった雰囲気の，若い二人連れの女性の参拝客をみた。一人の，恐らくは蓮池会のお婆さん―に介助されて，祈りの最後に「ケーチコ―」と唱えていた。

運転手は，この廟に常日頃詣でているとのことであったが，廟の名を訊ねたら，知らないと。奇妙な現象と思うなかれ。本主廟参拝の折々，これは何処へ行っても味わう不思議であった。先に考えたように，一つの地域には廟は一つしかない。それは産土の地の神であった。誰であれ産土の地は二つない。臍の緒を切った場所は一つしかない。そして，他の産土へは詣でるはずもないし，そんなことは思いもよらない。としたら例えば，日本にいて日本のことをこの国というなら，日本以外あるまい。特別に意味を持たせる場合を除き，わざわざ日本国という必要はない。区別すべき何物もないのだから。そういうことであろうか。

あまりに当然で当たり前の物や事は，個別に指定する必要はない。だから

「白馬将軍廟」という必要がなく，本主様といえばよい。神といえばよい。自分たちを守る神は，本主様。この神より他にないからだ。区別しないなら，その必要がないなら，名を言う理由がない。そういう論理構造であろうが，そう理解してもなお，我々は名を知りたいと思う。本主様でも，神様でもなく，「白馬将軍さま」と。

ここには中国人独特の心理構造，というべきものを想定しないと理解できないかも知れない。彼らは，時に論理的に必要としない，あるいは思いつかない方が良い，物やことについて，全く意識外に置く，そういう心理のあることを，ここ二十年来の付き合いの中で感ずることがあった。

考えてもしょうがないなら，意味がないなら，愚痴ったって仕方がない。言ったって仕方がない。そういうことであろうが，大陸に過ごす者が，その圧倒的な状況の中で，身に着けざるを得なかった生活の知恵，生きる術，ということなのではないか。今やそれが自然であり，自動化してしまっているということ。

4. 翌日（2011/08/21），張先生と「神都廟」再訪

08:47 洱源県行きのバスに乗る。大理古城の西門＝蒼山門を登った所。古城を背にして，右側にバス在り。洱海に沿って南北に２本の道がある。その山側の道を行く。

09:07 喜洲鎮につく。そして三輪タクシーに。

・スローガン・について

［洱海清ければ，大理は大いに興る］

この類をみては，旅をしながら，何度となく腹立しいというか，いやな印象を持った。全く事実とは違う，あるいは在りえないことを言っていると感じるからだ。［反腐敗闘争］などという標語もまた同。そんな類を誰が思いつくのか。誰がそんなことをするものか。やったら，自分が損をするだけであることは目に見えている。単に理想をいう空論ではないか等と。

しかし，今は腹が立つ等ということはない。祈りだと分かったからだ。そう，祈りとしての言葉・標語。そう思えば十分得心がいく。

さて，バスを下車し，３輪タクシーに乗り換え。しばらく走り，石畳の道に入り，舌を噛みそうになりながら神都廟に着く。

神都廟入口の広場で，人々が何か喋っている。それによると，どこかの廟にお婆さんたちがたくさん集まって，何か祭りのようなことをやっているらしいと。でUターン。例の３輪タクシーに連れられ，同じ道を戻る。そして，翔龍村――沙村と来て，10:26 沙村の廟に着く。洱海に向かって，降りていく。水辺に廟が建っていた。水から上がって来る龍王を迎えるに相応しい設えである。

5. ≪聖源寺≫

閉鎖されている門の扁額には，聖源寺とある。しかし，ここは入口ではない。塀に沿って，露店が店を出しているのだが，それを見ながら，湖（洱海）の渚に近いところまで，下降。そこに廟の入口はあった。お婆さんたちが，サンソママ or サンサンママとこの廟の名をいっていた。寺と本主廟とがドッキング。しかも，塀で区切られているものの，まさに一体化というか，廟に乗っ取られていた。もうもうたる線香と煮焚きの煙，ラッパ，拍子木，鉦等の音々。人々の声。何組もの蓮池会の人々の観音経を上げる歌声，狭い廟内を行き交う雑踏。本主様への生贄の鶏を殺して血を抜いている水辺。

（人々は言っている。寺の名は）サンソママ（母）寺？？？聞き取れない。八母寺（パーマ―ス―）とも。地域の廟であるから，いくつかの宗教的意味が重複しているわけで，そこに名の輻輳化が起こる。サンソママスーとパーマースーと。

今日はここに死者（の霊）が来ている。盆の―旧暦７月 23 日，この近くの村々の盆はまだ終わっていない。今日は最後の日で，先祖の魂を今日のうちにこの隣の湖（洱海）の方へ，送っていく日にちである。（ビデオ影像在り・デジカメも）

三重の塔があり，その最上部に玉皇大帝を祀る。

「保平安」という言葉が壁，幟旗の何箇所かに書かれている。その意味は，平安を護ってください，の意。

少し奥まった場所に両面像が立っている。それは地蔵菩薩と本主様が背中合わせになり，両面をなす像である。両面一体立像。高さ５メートルほど。

いくつもの神像が所狭しと並んでいるが，主神あるいは守神は何と称するかと聞くと，東獄大帝であると。東獄宮にます。

＜包拯＞の立像について

この人物は，宋代に実在した。良い裁判を励行した人物として史上一番に推される人物とか。この人を像にして祀ったのが，八母寺（パー・ムー・スー）。天井絵に到るまで，母なるものが強調されていた。造り付け，設えられたディスプレイの数々。この奥に，地獄絵20枚があった（写真あり）。

この村は，和以家村。近隣から今日は大勢のおばあちゃん達が集合していた。男性もいるにはいるが，非常に少ない。ラッパを吹いていたのが，男性だった。

死者が出てから，直近3年間は，連続毎年お参りしなければならない。直近の三年間に死者がなければお参りには来ない。

（12:00となるが，昼食はトウモロコシ一本で。洱海の渚近く，入口の露天で，買う。）

泥鰌の放生を見る。なぜ，泥鰌なのかと訝しく思うが，この解答は，午後になるまで理解できなかった。午後「回春閣」に行き，そこに建つ碑をみて，全て氷解。（50元で神都まで送ってくれる車を発見）。この運転手さんは，湾橋郷の人。自分の母も，昨年4月に83歳で亡くなったので，今日来ているのだと。

実は個人的には，7月14日に先祖霊を送ったが（送り盆か），ここの習慣として，先祖霊の送り儀礼をやっているので，自分たちも今日お参りに来たと。

＜神都廟＞に戻る

今日も神都は，昨日同様その名の「都」とは違い，人はまばら。近隣の和以家村や古生村で祭り（盆行事の霊送り）をやっているからだ。後ほど南朝廟に向かうが，神都は北朝と称し，本来中心であるはずだが，祀りをやっているか否かで，人の流れは変わる。

「＜糸＋堯＞という文字に，山林霊」と書いて何と読むか。「至尊の神のいるところを廻る」巡回する，の意だ。

＜神都で，蓮池会のことなど聞く＞

今日は，蓮池会のお婆ちゃんは二人。そのうちの一人に聞く。政府からの援助金はない。蓮池会のお婆ちゃんたちが，これら廟の世話係のお婆さんを支えている。相互扶助的か。

ここ1年以上，この廟で管理の仕事をしている。給料というものは1銭もない。線香を売ったりして，少し収入がある。寄付金くらいでしょう，と。

自分は子供がいないので，家にいても一人だから寂しい。だから，ここにいた方がいい。もう2年目になる。今後も一後3年くらいか，ここに居続けるか

も知れない。自分もいろんなことを考えると，ここに来たいという気持ちがある。

湖東（ヘイトン）に自分の家がある。そちらの本主と比べたら，こちらの（神都）方が管理し易い。向こうは管理しにくい。管理の仕事は，廟の掃除，塑像の埃落し・拭くこと。神様をきれいにすると気持ちも良いでしょう。門の鍵は自分が持っている。ここで食事し，ここで生活しているのだ。地図を見ると湖東という地名あり。

居合わせた参拝客に聞く。――馬車で 30 分かけて来た。

なぜお参りに来たかと問うと，三日前に家に死者が出た。明日は出棺です。出棺の前に神様（本主さま）に知らせる必要がある。この人（死者）はこの世から居なくなったということで，―死者が出たときの報告である。こういう場合には鶏，豚肉などを持参。

――死者は 67 歳と若いですね。だから，先ほどあのお婆さんは，一つの神の筒（黄色の紙製の四角柱）をもっていて，足もとに置いていましたね。あの筒には，孝女，親孝行の孝などと書いてあります。恐らく彼女は本主様にそのことを告げた。その上で，誰誰が死んだというふうに。

―張正軍先生の説明（＝私の読んだ文献には，こういう風に書いてあるようで，「この人はもう居なくなったから，戸籍簿から消してください」と自己申告しているとか。－どの家も死者が出たら，本主様に報告に来るそうです。もし報告に来ないなら，神様を騙すことになるのではないか。この人はもういないのに戸籍に残したままで，なぜ報告に来ないか。というわけで，結果として，神様はこの信者を信用しなくなるから，――）

「明日，踏喪歌をやりますか」と尋ねる。「いや，やらない」。

洞経会（男性のみ）というのがある。ちょうど女の蓮池会に対応する形で。男たちは音楽（楽器の演奏）をやり，女性たちは念仏。ところで，和以家村の廟でのラッパ吹きの男性はどういう立場か。村の人か，どこかから雇ってきたのかもしれない。死者が出た家が雇ったかも。

6. ≪南朝廟≫

15:00 をまわる。＜神都廟＞を出て，広場で三輪タクシーの運転手に廟のことを訊ねると，自分は廟の事は知らないが，近くに神都（北朝という）とならぶ

重要な廟がある。それは，南朝と呼ばれている，とのこと。では案内をと，これに乗る。石畳の，一例によって舌を噛みそうになりながら，南朝廟につき，中に入ってみる。

「功徳碑」があり，それによると「朝栄二村本主」と称するらしい。その碑によれば，蓮池会が「倡議」し，「村民が讃成し」，「経母炳合，老年会長李顕（顕は簡体字で，頁のない表記），廟管組長李江，李万坤協助，成立章元為組長，李中明会計，出納宝業，委員李浩，立宇，利青，育開，玉美為*（竹冠＋寿）建組，将老殿購地退后十一米六，水平提高三米二七，進行重建．資金両次*（手編＋ヌ＋舊鳥）配農戸．田畝人興損款．計 108,826 元．干二 00 九年十一月初一開建．由下*（又＋烏）邑陳志施工．干二〇一〇年三月廿八日落成．用資 485.405 81 元．全*（土＋云）佛尊全部復塑，用資 46,911 元．干二〇一〇年十月初九開光，特立功徳碑．公*（人偏＋布）干下，永垂不朽．」

とある。蓮池会が「倡議」とあるので，まさに率先して音頭を執り，真っ先に言い出したということ。募金・建設をリードしたのが蓮池会であった。本主廟と蓮池会の結びつきを象徴するもの。

この文章の後に，寄付の芳名簿とその金額が記される。「総底戸数：」とあり，その次にトップ金額の 3200 元を寄付した，李風科の名がある。次は 1100 元の李時秀と続く。少額という点では，個人で 50 元というのも。

特徴的なのは，他の地区の蓮池会からの寄付である。夥しい数の蓮池会からの寄付がある。金額的には 60 元から始まり，100 元 200 元といった数字でそう多額ではない。ただし協力蓮池会の数が多い。当地の蓮池会が「倡議」した背景も見えてくる。また多くの蓮池会に協力を求めた事が察せられる。

≪協力蓮池会のある村名あるいは組織≫

青平，北*（石＋番），西門，下作邑，北陽，双陽郷北朝村洞経会，永興新生邑，和楽，大理中洋河，才，双*（合＋鳥），慶洞七社，小慶洞，大理南門，下陽和，慶洞四社，上節南観音堂，沙，下陽渓，湾橋煙站，馬久邑風北，慶洞衛生所，風儀満江，双*（合＋鳥）本主廟大帮，古生，慶洞村委会，金圭寺，下*（又＋舊鳥），南門蓮池会玉渓村，慶洞五社，風鳴，金圭寺复社堂，満江下庄 3—4 社，下龍康上登，南庄，陽郷，東邑村新橋，文閣三舎，向崇，太，太山上登，大理東門，銀橋北登，馬久邑鳳蘭村，*（合＋鳥）陽，文院榜，上湾橋，慶洞八社，永興三个，七里橋上末北，慶洞三社，大理果汁園，中庄，古生洞経会，下陽渓洞経会，下関大長団，市血防站，海嶋，大理西門，大庄園弟

子，南*（石＋番）渓下登，喜洲復善堂，文閣上登，下関金星村佛姉妹，慶安岭，上陽渓，文閣新登，下関洱賓，下関華江村，金圭寺紅苔（菩）下*（舟＋皿），下関西村，下関福新村，下（又＋鳥）邑会丹，江渡一社，江渡二社，慶洞幼児園，下関北村，下関〓宗邑，金圭寺，慶洞神都（500元），

末尾に，「ここに第一に挙げるべきは，朝栄二村人民の一大功績である。万代留伝，史不可否」とある。協力団体は，80団体ほど。ほとんどは蓮池会だが，なかには洞経会，本主廟大帮，慶洞村委会，慶洞幼児園，金圭寺などの寺，慶洞神都（本主廟）もある。

南朝廟の屋根の端に付いている風鐸の音が素晴らしい。この音を聞いただけで，南朝に詣でた甲斐があるといった印象。
「南朝本主全*（土＋云）神像序牌」というのが境内にある。
「載歌載舞続三霊」と題する若い男女の歌舞する陶板画が廟に向かって右に，掲出されている。本主様の像の上の横断幕に「慈父仁君」の文字がある。本主様の頭部の背景は太陽の形である。
●「功徳碑」について――，張先生の解説に曰く，
会計として，何々を委員にして，……この廟の造り直しの組織を作った。蓮池会と老年会，廟の管理の組長とか，が管理をする。そして，お金を集めて，作ったと。こちらのプレートは寄付金の事ですね。108826元，こちらは何々に485元使用した，など支出。2010年のことですね。組織がはっきりというか，きっちりしている。

チョウエイニソンという村の名。本主殿の歴史は，―蓮池会の……（総意），村民たちが賛成して，ケイボ？？何かの共同の責任者？？老年会長の協力を以て，廟のショウゲンという人を組長として，－会計，－出納，―委員として，―土地を買って（11.6メートル四方の），水平的には3.27メートル蒿上げした。資金は2回に分けて，それぞれ土地の面積当たりに各自の分担金を分配した。

107軒が負担した。ケイブ，――これは良く分からない。何か違う組織でしょう。また，村以外の人が8000元。さらに，他の村の蓮池会の寄付金。他の村も協力し合うということになっている。蓮池会の数はどれほどの規模か。上記で，80近くの数を見たが，さらに地域的広がりを見れば，廟建設に協力し

た蓮池会の数は多くなるだろう。
（風鐸は，軽やかな古代の音を醸し，なんともゆかしい心地がする。誰も守る者はないが，鍵は開いていて，恐らく心としては，祈りたい者はどうぞと言ったことであろう。帽子を置き忘れる。）

7. ≪福海寺／水晶宮≫

三輪タクシーの運転手が，現在祀りをやっているとのことで，そこまで送ってもらう。いずれ，大した距離ではない。石畳のがたがた道を，一葉煙草畑の両サイドに広がる中を洱海の渚に向かい下降しつつ進む。村標識に「古生村」とある。

福海寺に着く。そこに「封勅　本主北方天王」と刺繍の垂れ幕がある。
「大理市湾橋鎮中庄村委会古生自然村公示欄」
という掲示板にであう。財務と党務とにわかれ，党務の欄は空欄。財務の方は，収入と支出が記入され，項目のみが記されていた。数字はない。広告に，
「関干開展湾橋鎮 2011 年民主評議政風行風活動的広告」
とある。「鎮属轄区内各村，各単位，各界人士：　」と呼び掛け，発布元は「大理市湾橋鎮人民政府　　2011 年 6 月 12 日」とある。

門前もきれいに整えられ，――他ではあまり見かけないほどきれいな門があり，水晶宮とある。扁額の下に「好生大徳」と。さらに「古生村○○，公元 2006 年吉旦」とも書かれる。
一歩入ると，
「古生村老年活動中心落成○福海寺
　　本主廟復修竣工紀念碑」
と二行書きされ，次に寄付者の名前（27 名）と金額が記される。最後に，「古生閣村人民立　2009 年 8 月 10 日」とある。碑の左下隅が欠けていて，三名の名前が読めない。金額は，200 元～600 元である。

別の道路改修の碑によると，洱海の傍であるので，村の中心道路が水浸しになると。265.000 元を積み立て，なんとか道路をつくったなど。
「天地始祖五方五老蒼帝之位」などという位牌がある。また，「恭祝　本主北方天王　祠下」といった扁額いくつかあり。また「北方天王閣下福地宮碑記」なる記録もある。また「三教同源」とあり，隣には「福海寺」の名がある。

そこを抜けて洱海に向けて10分ほど行くと，＜回春閣＞である。

こちらは洱海に面し，たまたま風が強かったので，水しぶきが飛んで，奄美，沖縄の女性神職が白装束で並び立ち，海の神を招く，といった祭祀のような印象であった。蓮池会の人々がまさにその装束をしていたので，沖縄祭祀習俗の一齣といった印象を深めたところ。

8. ≪回春閣≫

ここに至る道すがら，明らかに送り盆の様相である。門前に火を焚き，一時に蓬を焚いているのが鼻腔に印象的。例の太い線香が門に向かって左に，右には，洗面器に藁のような物と蓬が焚かれ，激しく煙っている。ある門前では，蓮池会の人々であろうが，二列に向かいあい，念仏を唱えていた。頻りに紙銭や紙の衣装を燃やす。二列の中央に座った当主は，例の紙の角柱を手に持ち，火が手に迫っても，できるだけ持っていようと我慢の体である。孝行の証がこの我慢にあるかのようだ。

この家に入って行くと，蓮池会の宿をしているとかで，茶を勧められ，お菓子をもらった。とても，中国と思えない。日本の田舎の民俗採訪風景だ。「寄っていきなさい。食べていきなさいと」。

蓮池会のおばあちゃん達は一様に，民族衣装といっても良い，例の衣装だ。洱海のほとりでも，向かい合いに二列に並ぶ蓮池会の念仏をそこここでやっていた。

回春閣は，扁額の右側に「慶祝　四天佛子四海龍王張公○○　座○」とある。左には，

古生村　洞経会立　楊　志　題
　　蓮池会　　何○中　書

天運庚辰年○○○○

とある。この建物は，風の強い今日は，水しぶきが飛んで凄い。回春閣から洱海に向かって，右側に汀がせり出している。そこに，蓮池会の人々が二列に，洱海に開くようにして向かい合い，念仏を唱える。何種類もの大量の線香が焚かれ，風に煙が煽られ，水しぶきが舞い，沢山の茶碗灯籠（蝋燭）が水に浮かぶ。独特の雰囲気を醸していた。午後五時を廻っていたが，まだ皆さん散会とはいかないようだった。共食のご馳走をお互い分かち合い，器に入れて家に持

ち帰るのであろう，切り分けている姿が数か所で見られた。

回春閣は，天井の梁に鮮やかなコバルトブルーが彩色され，その模様は沖縄のハーリー船を思い起こさせる。実に晴れやかな色だ。

福海寺・水晶宮は男性老年会が仕切り，回春閣は蓮池会が仕切る。途中，念仏をやっている女性たち何組かに会う。2列になり向き合い，5〜6人ずつで念仏を唱えている。そこで燃やされる材に蓬がある。これが独特の香りを漂わせ，なかなかである。福海寺では老年会の人が音楽を演奏する。

回春閣の入口に大きな石碑が建つ。ここに放生会の起源が語られ，なぜ泥鰌であるのかを教える。表に「回春閣」とあり，「大理市洱海保〇　管理局　2010年5月」，裏面に「放生伝説」とある。

曰く（張先生の翻訳に従いつつ），

冒頭「相伝」と始まる。なお碑面には，右縦に「古生放生修生養劇」，また左縦に「延年益寿」とやや大きな文字で刻まれている。

唐の時代，高僧玄奘師は西に真経をとりに向かい，東に向かって帰ってきました。仏教を布教していた頃でしたが，旧暦7月23日という日に，ここ古生村にやって来て，洱海を渡ろうとしました。ここに着き，さて洱海を渡ろうという段になりましたが，予想に反し，船が出たばかりで，次の船を待つこととなりました。

すると海辺で一羽のカラスが突然大声で叫びました。三蔵法師玄奘の乗った龍馬は驚きビックリし，足が滑りました。唐の三蔵法師たち一行は，お経が乗っている白い馬とともに，水中に滑り落ち込みました。三蔵法師たち4人は力を尽くして，漂流した（海に落ちた）お経を拾おうとしましたが，水が深くて，波は急で，一部の経典は水の下に沈んでしまいました。沈んだお経の一部は海の中の魚にのまれて，亡くなってしまいました。また海の底に沈んだお経の一部を泥鰌（泥鰍）が見つけました。泥鰌たちは力を尽くして，その経典を海の底から海面へ持ち上げました。おかげで，唐の三蔵法師たちもお経を一部回収できました。

その後，仏様はその事件を知って，征悪揚善するため，仏教の弟子たちに，念経をする時に，いつも木魚(―お経を飲んだ魚）を叩かせることにしました。―魚にのまれた経典を吐き出させるためです。また，お経を飲んだ魚が叩かれ続ける。―それも因果応報の理（ことわり）です。泥鰌が経典を海の底から運んできた，という功績を表彰するために，天下の仏教の信徒たちに毎年，旧暦

7月23日に，この洱海の海辺で，泥鰌の放生をさせる。これも仏教を布教する，一信徒たちが，生き物の命を大切にする徳を宣伝するためです。したがって，信徒たちは，古生村の海辺に来て，改めて竜王廟を建て，放生活動の場所とします。古生村の放生会は，大理人民がここで，福を祈り，自然を愛し，生命を大事にする折（機会）となりました。

2011/08/23

≪鶏足山≫を訪ねる

0830 下関行きのバス停

本主信仰の総本山といえる鶏足山を訪ねておくことは大事だ。張先生も言われるとおりだ。張先生，顔色優れず，様子が何か変。後で分かったことだが，昨夜お腹を相当悪くしたとのこと。あまり眠れなかったとのこと。

タクシーで下関に。曇りだ。それだけでなく，温度も低い。

賓川行のバスに乗る。東に向かって進むことになる。ピークは2,225m/h ということで，大理より高い。しかし賓川市街は1,440m/h と高度計は示しており，かなり低い。それはバスに乗っていても体感的に分かるほどの道路の傾斜であった。

09:00 賓川行きのバスに乗り，着は10:26。賓川から鶏足山行きのバスに乗り換え。マイカーならば，遥か前で鶏足山へ行く道がある。しかし，定期バスなので，ずっと先まで行く他はない。ということだった。

10:50 賓川市街地 st. ⟶ 11:40 鶏足山チケット購入所。ここで，全員入場券を買わされる。これ無き者は，乗車できない。⟶ 12:08 鶏足山駐車場に ar.

まずは昼飯を。木蘭花酒家にて。

昼食を終えて，寺院巡りをする。鶏足山はいくつもの寺院群で成り立っている。その中興の祖というべき高僧がいるが，その人は清朝の時代で，僧なのに頭髪がある。辮髪の時代だからであろうか。わからない。張先生も分からないと。

風鐸の音がなんともゆかしい。南無阿弥陀の和讃風の唄いがテープで流されている。季節がらであろうか，客が少なく，実に良い気持ちで寺巡りができる。時折の風鐸の音がさやかに，まことに似つかわしい。

15:12 鶏足山より，帰りのバスに乗る。その女性ドライバー曰く，6人にな

ったら出発と。現在我々を入れて４人。そこで，残りの二人分を我々が負担するから，出発してくれと。オーケーとて出発。

白族の三つの祈りの場は下記。

① 城隍廟

② 本主廟

③ 鶏足山

大理周辺の白族で結婚が決まったら，そのカップルは結婚報告も兼ねて，鶏足山詣でをすると。

16:20 賓川に着。

16:23 具合よく，大理行きのバスが出発するという。このバスが面白い。ドアを開けたまま，街中をゆっくりと走る。何をしているのかと思いきや，客を捜しているのだと。なるほど，一定数を超えなければ利益は薄い。増えてくれば，座席以外でも何処でも座らせるし，客もそれを何とも思わない。昭和 30 年ころの我が国の状況だ。何事にも発展段階はあるもので，その点で，個体発生は系統発生を繰り返すのであろうか。興味深いことと思った次第。

17:50 大理着。タクシーにて，18:27 欄林閣着。

19:50 夕食。昆明の米のうどん。お腹が空かない。疲労が溜まってきたのだ。昔，工藤さんが言っていた。20 日間くらいで限界に達する。すると，都会に出てきて体調を整え，再び挑戦するのだと。納得。

カセットテープ 90 分を 3 本購入。マッサージに。昨年だったか行ったことのある店だ。凝りに凝っている，そういうマッサージ師の印象だ。汗かいたと，言っていた。ふと隣の席を見ると，8/20 にお世話になった運転手，趙章さんがいる。あれと思っていると，張先生が呼んだとのこと。実はアジア民族文化学会事務局の岡部さんたちが利用したのがこの車であった。岡部さんたち先発組は趙章さんのお宅に，食事の招待をされたとのこと。明日の調査の日程繰りで，張先生は困惑しているようだった。全て，完璧にやらなければならないと思っているのだろう。申し訳ないことだ。

明日は，08:30～09:00 にピックアップを願う。蓮池会の人を紹介してほしい，とも。知人に蓮池会の人はいませんか等。で，その訪問挨拶のための月餅を買う。これは今の季節に合わせた贈答品。108 元。

2011/8/24

11:00 趙章さんに連れられて，尹占元さんのお宅に伺う。下関鎮の北経庄のお宅だ。いささか紆余曲折はあるも，このインフォーマットに落ちついた。11:36。月餅を手土産に。

客間に通されて，そこには大理州人民医院の放射科の封筒がおいてあった。健康診断か何かであろうか。小ぢんまりとした古典的位牌と，両親の写真が飾られていた。衣服は，帽子着衣ともに清朝のそれであった。歴代蘇・尹氏の系図のような物を見せられる。「福星高照」の掛飾りもある。いろんな楽器がかなりある。胡弓二本，その他並んでいる。

「洞経古楽普及専用教材之一」とあった。「太上玉清無極総真文唱大洞〇経演唱文本」「雲南大理同仁洞経会　整理」「2009 年農歴己丑年秋」

演奏曲目を書いた目次を写真に撮る。

十個の星の入った「十星級文明戸」のプレートがかかっていた。「大理市精神文明建設指導委員会協公室監制」等という大げさな権威付けがなされていた。

この地区の蓮池会会長，蘇金水さんの家に案内される。お宅の前にやや東屋風の設えがあり，エンタランスとして門に向ってまことに似付かわしい。古い町には，独特の狭苦しさが中国全土にわたって見られるが，ここでは空間がゆったりしていて，とてもよい。

「大理市北経庄蓮詞会　仏教手抄本」との念仏での詞が書かれた本を示された。「2001 年 6 月」の作成とあった。祖先経とある。蘇金水さんの右手に持った，鉦に数珠をまいたような呪具が面白い。（写真あり）

供詞；　蘇金水　　揚省樹

記録；　茎理　　蘇玉美

抄詞；　尹占元　　1991 年到 2001 年 6 月定稿

という作成メモも入っている。「青皇茎景」「祖先経」などあり。趙敏先生に聞かなければ分からない。入口の門の上には，「厚徳載福」とあった。ギラギラしない，この家の風をここに見たような気がした。電柱に「北経庄」とあった。

ここの本主廟を案内してもらう。蘇金水さん，尹占元さんに。扁額に「赤胆忠候」とあり，そこに「信士」と右にあり，「敬献」と左にあるではないか。その間に 60 余の名前がある。確かに，蘇という姓が非常に多い。

中に入ると扁額があり右に「神像塑造善竣開光」とあり，左に「歳次辛未正月〇十」とある。額は「思播万民」とある。下に名前が入っている。信士「鼓

嘉様」，卒？女「蘇玉美」，婿「尹占元」，孫？「蘇学進」，息？「王富稟舜？」，
〇女「尹学光・蘇学英」，〇「楊時標」
とある。また下に赤い紙が貼ってあり，「継序不忘」とあった。

さらに内陣に入ると，「永**佔**恩徳」とあり，右に「本主明徳建宗佑方霊帝」，
左に，「蘇嘉祥率　男占元　　孫　蘇学英　」
　　女玉美　　尹学先
　　蘇学進
　　公元一九八五年全月廿四日敬立
とある。どうも，尹占元さんは本主に関わる並々ならぬ思いがあるようだ。扁額をいくつも上げて，……。

さらにもう一枚の扁額。「明徳聯那」とあり，右に「明徳建忠佑方霊帝開光」，左に上げた人の名がある。「南経庄士民　〇〇」。ここは北経庄であるはずだ。なぜ南経庄が。「辛未の歳　春」とあるので，この年がこういう信仰的な事をやっても良くなる歳であったのではないか。調べる必要がある（文革の終了時点などとの関係で）。

次に面白い記念碑を見た。

大理市下関鎮劉官廠村委会
北経庄村水泥硬化工程
捐款名単

16 名の名前が記される。その中に，尹さんの一族が数人も入っている。日付は，2007 年 9 月 30 日」。
で，この廟から，明後日見学する葬式の，椅子など貸し出しの準備をしていた。つまり，葬式を出す家は，廟が持っている椅子・机などを借りるようだ。
14:48「北経庄」の道路標識（2007 年立）に出て，バスに乗って帰投。

≪蓮池会≫のことを軸にデータとる
項目
①　毎日の廟の勤めについて。
廟における蓮池会のメンバーの仕事。清掃，鍵の管理，火災防止，
……祈りをしたい人の介助。
②　蓮池会の組織
　A．代表は如何にして決定するか。

B．廟に置く人の選択は如何に。

C．蓮池会の会員になれる人は。資格。

D．人数は。決まりがあるかないか。

E．どの廟に所属するか。

F．他の蓮池会との関係。連携はあるのか。

③　経済基盤

A．廟に勤める人の給与，手当。

B．寄付は，国・郷・鎮からの経済援助。

④　廟の本主の名前

例，白馬将軍廟

なぜこの廟の本主になったのか。その言われ。起源。

⑤　なぜ廟に参りたくなるのか。どういう気持ちを持った時参詣するのか。

また，詣でると，どんな魂の，心の慰謝があるのか。

趙章さんに彼の車で案内される。尹さんのところで，しばし話を伺う。

大理市下関鎮北経庄

尹　占元　さん（72 歳・男性）

この人は自らカメラを回し，映像も撮れるし，地域の伝統的な行事などを残していこうとしている人だ。DVD なども制作している。趙章さんの紹介で。老年会会長。

洞経会

音楽を演奏する仲間ということか。

蓮池会

蘇　金水　さん（85 歳・女性）

大理市下関鎮北経庄 12 社

蓮池会の代表

蘇金水さんのお宅にお邪魔し，庭の照壁の前で，蓮池会に関する話など採訪。蘇さんが責任者を務める蓮池会の会員は，50 数人いる。

項目①

廟に奉仕する人は，行って門を開け，掃除をし，蝋燭・線香を立てる。夕方には，火元の管理をし，鍵を閉めて帰る。

願いに来る人は，儀式のやり方の分からない人が多い。その場合，そこの蓮池会のおばあちゃんに頼んで，願いとか，呪文とか唱えてもらう。そういう場合は，介助してくれたので，廟の竈で調理した食事を一緒に食べるというのは普通。家に何か行事がある場合には，一日念仏したら，少しお金を出してお礼する場合もある。本主廟の場合は，代わりに唱えてくれるだけであれば，お礼は出さないで，共に食事するだけでよい。実際，そのようなことはよくある。

そのほかには，八仙人を呼んできて，‐‐天の仙女を下してきて，守ってくれるよう頼む。観音菩薩も呼んで来て，……要するに神々を呼んで来ているわけ。

項目②

蓮池会の代表はどのようにして決めるか。

年上の人，一つは物事が良く分かること，いろいろお経を唱えて，やり方がわかる人というふうな人が良く推薦される。選定の条件はそれである。この村は，北経庄村。

項目③

廟に置く人は，どういうキャラの人ですか。

責任感が強い人，清潔，よくきれいに掃除してくれる人，その人の家族が賛成してくれる人，一日には一時間くらい働く。お線香を立てたりして，一時間くらい働く。その一時間くらいの奉仕でもらえるお金は五角ほど。その五角は蓮池会のお婆さんたちが，会費のようにして集めたお金を，蓮池会からとして支払う。

項目④

蓮池会への入会条件というものがありますか。

特にないが，孫が一人いればそれで良い。年齢的に制限はないが，孫がいることが条件となる。

項目⑤

蓮池会は会員に限りがあるか。

ない。孫を持っていればそれで良い。

項目⑥

蓮池会同士の協力連携はどのようにしてなされるか。例えば寄付をお願いしたい等の場合のような。城隍廟とか何かの本主廟の本主様の誕生日などと

いう場合，城隍廟の行事，あるいはこの前神都に行ったが，地域的な神の誕生日といった行事の時には，蓮池会同士は連絡を取って，いくつかの村の人が念仏に行く。そして，どこかの村で，何か廟の新築儀礼があった場合，その廟から誘われる。そういう場合にも出かけていきます。それ以外は蓮池会同士で付き合うことはあまりない。誘われた場合には一定のお礼を持っていく。

項目⑦

経済的基盤に関わる内容の質問をしたい。

廟のお勤めをする人に特に給与をあげることはない。会員一人当たり五角以上はなにも。その人の生活はその子供が支えるからだ。何かのお礼もない。老人なので肉体労働もできないし，子供たちが養ってくれる。

項目⑧

国・郷・鎮等からの援助金の支給はあるか。全くない。

項目⑨

本主様の名前の由来。

この村の本主様の名前は，フ―ツァーイェと言い，南詔国時代の王様の娘の婿であった。この地域の土地はフ―ツァーイェが買っておいた自分の領地だった。自分は東南アジアに戦争に出かけて，凄く勇猛であったが，戦争中に亡くなった。なぜこの本主様になったかというと，この地域と何らかの関係がある人物であったからだ。この村の殆どの人は，ソという苗字です。蘇姓（このお婆さんも蘇金水という）。

項目⑩

どういう場合に廟にお参りしたくなるのですか。その心を教えてください。

廟を造ってからの歴代の伝統，その時節になるとお参りする。風俗だから廟に詣でるのだ。良いことをしてくれ，悪いことをやめるといういわば，道徳の教えとか，説法とかという役割もある。どの村にもあります。ただ唱える経は村ごとに違います。

項目⑪

本主にどのような人物を配置するか。どういう人が本主様になり得るかを教えてください。

歴史上に実在の人物が多いのですが，普通の村は，自分の村の先祖ではなくて，他の民族，他の地域の偉い人を本主にしたのですが，この村は自分の

先祖，蘇さんを祖先として，本主にした。自分の祖先を本主にした村は割と少ない。一部の廟では，孔子様も祀られているが，それは学問の神様であって，本主様としては，認められていないのです。

項目⑫

慰謝としての本主への祈りはありますか。つまり本主に祈って，心が軽くなった，慰められたということはありますか。

念仏すれば元気がでる。気持ちが良くなる。＜七仙人＞を空から下ろすことを祈ります。

●大理市北経庄蓮池会の代表が，蘇金水さん（85歳・女性）

●「照壁」について。この蘇金水さんの家には立派な照壁が建っていた。屏風というか巨大な一幅の墨絵のようなのを，感嘆の声を上げると，――張先生曰く，「三房一照壁」という表現がある。一つまり三つの部屋，一中の部屋は中心で，母屋，先祖の位牌，接客という役割の部屋である。両サイドの部屋が家族の個別の用途のための部屋となる。この三つの部屋に，壁に当たった光が反射して照らすように設置されている。その構造の事を「三房一照壁」という。

●蘇さんの孫が，我々が話しているところで，庭木の梨の樹によじ登る。何をするのかと見ていると，数個の梨の実をもぎ取り，降りてきた。そして，我々に食せよという。包丁とともに手渡す。歓待しているのだ。言葉はスムースにいかないのだが，こういう交流がある。稀人（まれびと）を歓待する。何事をもたらすか，それは分からないが，それとは別に稀人歓待のこういう様は，まだ日本でも田舎にはあろうし，昭和40年代までの日本ではどこでも見られた普通の光景だった。はにかみながら，どこかから来た遠来の客を自分の範囲で，独自に心寄せする。そういう文化である。

●北経庄は全村で，116戸だ。

尹　占元さん（72歳・男）が，ときどき質問に対する言葉を補ってくれる。

●念仏歌のような歌詞の本に付いて，――（尹さんの作成本），

蓮池会に新入会する時に，リーダーのお婆さんからいろいろ教えてもらうわけです。こういう歌詞も。昔は一句一句，口移し的に，新しく入会する人に，夜などに，教えてあげたのです。つまり，口頭伝承であった。それを，2001年にこのおじいさん（尹占元）は定年になって，記録してコピーして配ったのです。つまり文字化である（写真あり）。

おかげで，自分で念仏の練習ができるようになったので，割と楽になりました。で，教わった側は，何らかのお礼をあげるかと尋ねると，ロシアケーキあるいは黒砂糖をあげるという。

●蓮池会の入会の儀式は何処でやるのか。

本主廟の前で，もう入会しましたと，これから良いことをすると誓いまして，そのように本主様の前で誓います。何人かが新規に入会した場合には，同時にその儀式をやる。

●蓮池会のお経をカメラに収める。必要なら，趙敏先生に確かめましょう。

2011/08/25　張先生と趙章さんとの話し合いで，別の運転手を回しますとのこと。その運転手が，蓮池会の他の人を紹介してくれるとのこと。趙章さんの義理の父なる人に，紹介してもらうとのことだった。で，その運転手に連れられて，趙さんのお宅に。電話を入れてもらうと，義理の父なる人は，出かけていないとのこと。これはこれで止むなし。

将軍廟再訪

「南詔徳化碑」を見て，さて如何しましょうとて，将軍洞（将軍廟）に送ってもらって，運転手とは別れる。ここには蓮池会の人がいるし，関連のことを少しは聞けるだろうとの目測。

この将軍洞には，蓮池会のお婆ちゃんは，二人いて，よく見ると一人はまだ若かった。聞くと二人は母子で，母は楊チャンコウ（文字の確認ができなかった）といい，85 歳で，この廟で 30 年間もこの役に付いているとのこと。蓮池会の人で同時に老人協会の人でもあった。下関の人である。娘の方は快活で，僕を指して何者かと聞き，日本人だと言うと，供物のバナナを切り取って食べるようにと差し出した。それを口に運びながら，こちらに来なさいとのことで，ついて行くと祈りの経過を見ているようにとの指示。

例によって，黄色の紙の四角柱に火をつけ，これが殆ど手に迫るまで，落してはいけないとのことで，真剣な面持ちで，祈りに来た人はぎりぎりまでこれを持ち続ける。この四角柱の中には，祈念の言葉が書きしるされている（実は門の入り口の所で，これを書いている人がいる。書いた紙をこの紙の角柱の中

に封入してある)。これを燃やすことで，神に聞き届けてもらえたことになる。つまり，神界との交信は，この燃やす行為を通して，可能となるのだ。

その前に，蓮池会の例の楊お婆ちゃんは，祈りの介助者として祈願者の横に跪き，何か呪文のようなことばを発している。何を言ったのか，張先生にも聞き取れなかったとのこと。白族語で，かなり方言がきついとのこと。そこで，例の娘さんの方に説明を求めてくれる。訊ねた結果は，以下の如し。

先ほどの呪文の意味は，神々を呼んで来て，これこれの人が今日願いに来ました。この家族には子供が大学にいけるように，老人は健康で病気にならないように，言い争いがないように，もめ事もないように，五穀が豊作になるように，……といった祈りであったと。

次々と祈願の人はやってくる。娘さんの方は，ややビジネスライクに見える。本主様にマントを着せかけている人がいる。若者だが，浙江省で商売をやっているとのこと。だが，うまくいかない。そこで，今日は奮発して，本主様にマントをプレゼントして，祈願の効果を絶大にしてもらおうとの心算だと。自ら仲間とともに，着せかけている。このマントを作ったのは，実はこの蓮池会の娘さんの方で，160元だったとのこと。つまり，娘さんは，若者に160元（この布地がそんなに高いとは思えない。しかも，ただ切っただけのようだ。縫ってない。）でこれを売ったことになる。これほど次々とこういった客が来るなら，かなり実入りが，……と思ってしまう。お祈りの介助の時にも，願いの客が，母親に50元を握らせていた。

別の祈り（参拝）の人がいる。この人はやや歳のいった人で，自分で呪文を唱えている。自分でできれば介助はいらない。各自で，ということだ。

先ほどのマントを供物として供えた人の呪文の続き（張先生の訳によると)，平安に，また喜びが続きますよう，目出度いことが，心に思うことは願いどおりになるように，発財，ビジネスがうまくいくように，将軍様の御守りで，万事思うままにいけるように，お願いします。マントを着せますから，今日から何事も順調にいけるように。

張正軍先生が，祈り（参拝）の当の客に聞くと，

ビジネスをやっている。さっきのお婆ちゃんは，特別に頼んだのだが，ここの管理人の中の一人だと。

また，呪文，

マントを着せかけますから，うまくいきますように，平安を家に持って帰れますように。何事も，金銀財産全部家に持って帰れますように，……。
その供物のマントは160元だと。

鳳羽の出身だと言っていた。この依頼の客は気付いていなかったが，上に書いたように，廟の管理人の二人は母娘で，この広大な建物を二人で管理しているとのことだ。また祈りが始まった。呪文と太鼓を打つドンドンドン……という音で，何も聞こえない。皮を打つ場合と胴を打つ場合とで，リズムをとっているが，仕上げは胴をトントントンと打って終わり。
呪文に，

将軍様はこの太鼓の音を聞いて，それで守ってくださいと，願う人がきました。大理蒼山の19の峰の神々，この人を無病息災になるように，お願いします。朝起きて，すぐに願いに来たので，金銀財産が家に一杯積もるように，朝出て，一路順調に，無事になるように，金銀財産が沢山来るように，きれいな赤ちゃんが生まれるように，家中が安全になるように，毎日何千万元も儲かるように，事業がうまくいくように，……。
（さらに続けて呪文を唱えるが，同じ言葉の繰り返しである。）

家に財神が来ていますよ。で，家に帰ってからも財産を願って，……。
（ときどき歌うように唱える。）
歌っている内容を訳すと，
子孫たちが偉くなるように，天に願い地にも願い，経文を差し上げます，燃やしています。今，経を燃やして差し上げているところです，目出度いことがたくさん来るように，家族全員，平安，毎年無病息災であるように，家族全員が安全であるように，平安を持って帰えれるように……。
と唱えている，とのことである。
田会芳 or 田会芬さん（58歳・女性）

将軍廟のお婆ちゃんの娘さん（田会芳）の方が，何か聞きたいことはないか，と声をかけてくれる。

（Q.）将軍廟に来て何年目になりますか。――六年目になります。ここで管理をしています。家にいたころは，人に頼まれて鶏を持って来て，良いことをしていました。なぜここに来たかというと，仏様に選ばれたからです。26歳の時にお寺に線香を立てに行きまして，仏様に選ばれたことを知りました。その後しばらくして息子の奥さんが白血病になりました。彼女がこのように良い

ことをしていたから，その病気はしばらくして治りました。良いことをしたから，その報いとして，（―白血病はなかなか治らない病気だが）治った。それから12年目になりました。もう大丈夫です。自分は今年58歳です。田会芬さん。「レンシーホイラマ」（あなたは蓮池会の会員ですか）「レンシーホイ」（蓮池会です）。

沢山の廟へ念仏に行きます。仏教関係の念仏に行ったこともあります。もし困ったことがあれば，―解決できなければ，―こちらが行って念仏して，解決してあげます。ビジネスが悪かったら，うまくいかなかったら，こちらに来て，願いをしたら儲かるようになります。先ほどのあの男は店舗を開いたが，商売がうまくいかないから将軍様にマントを掛けて，で儲かるようにと。〈あの男も僕（張先生）と同じ浙江省杭州の人です。〉

旧暦の正月１日・15日に木魚を叩いて念仏します。隣の蓮池会に，仏様の新築儀礼などがあれば誘われていきます。（隣の蓮池会の人に知り合いはありませんか？―との問いに）。知り合いは居ますが，旧正月の１日（春節）だったら，紹介してあげます。今行ったとしても，行事がないので，向こうは何もしないですよ。正月１日だったら何処の廟も人がいて，賑やかに揃っています。今行っても，人がいないので，……。１日だったら，木魚叩きながら，念仏していますよ。

東部？？の蓮池会は200人余の会員がいます。この蓮池会はこの人のお母さんがトップで，次が自分だと。蓮池会は身分制度がある。№1はお母さん，№2は自分だ。ハイチンツァーはトップですね。一日に１元，お米を少し集めて，炊いて正月一日集まって食べる。念仏の日ですね。廟の運営に，国からの運営援助はない。儲かりますように，と祈るだけ。

蓮池会のトップは，――身分制度は厳しい。一番上は年配の人，念仏お経のできる人，いろいろ唱えられる人，行事がやれる人，尊敬されている人，がトップになる。一度トップになると死ぬまでやる。ここの場合，お婆さんが亡くなったら，あの娘がトップになるのではないか。下関は大きな町で，その本主だから，人も多く，供物も多い。

●張先生が電網（インターネット）で調べたら，蓮池会は白族民間において観音崇拝を主にする，神々を祭祀する中年・老年の婦人組織，とある。

別名は，媽々会，念経会，拝佛会，

マーマーフィ　ヅャーラ―フィ　チンクィフィ　チャンツァーフィ

ハーフゥーフィ

※斎は，斎あるいは齋で，①身を清める。物忌する。②仏教徒が肉食や飲食をせず，清らかな生活を保つ。ここから粗食するの意味に。（三省堂・漢辞海）

●張先生が，電網で調べたところ，蓮池会は，上から言うと以下の組織序列である，とのこと。一番下は，焼香童子。これは，掃除したり，線香に火をつけたりの手伝い役の若い女性。正式会員ではない。

大経母（ダイケイボ）（島節嫫）→→経母（ケイボ）（節嫫）→→経頭（結斗）→→会員→→焼香童子

●入会儀礼について

入会の儀式は本主廟でやる。蓮池会の大経母から，××はしてはいけない等「べからず集」を言い渡される。そして大経母から新入会員に，木魚・数珠を渡される。これを以て，入会と見なされる。木魚・数珠が会員のシンボル。

●お経について

36 経というほどに数が多い。昨日の尹占元さんのノートにも，目次にはかなりの経数が書いてあった。唱える順番は下記。

開門経→祭典経（？？仏様を呼んでくる経）→日光経→月光経→観音経→太子経→地母経→青ガン？？経→国母経→竈王経→山神経→利用経→禹王経→大？？経→愛民皇帝経（本主様）→城隍経→×××経→五代将軍経→紅山本主経（各村の本主様）→老爺経→中央皇帝経（中央本主か）→地蔵王経→風陣経→×××経→雪山太子経（蒼山か玉龍雪山か）→大黒龍経→老××経→大清経→×××経→本主経→大××経→十王経→（以上 36 経がある）

他にも蓮池会関係の論文はあります（張先生）。自分が電網で見たのはこれくらいだが，と張先生。文献リサーチが必要だとのこと。

〔　本日午後の日程をどうするか。練り直す。西門（大理古城）の近辺，三夕街の門のところで昼飯とする。食後，張先生に蓮池会関係の人，あるいは廟について，交渉してもらう。タクシーの運転手は金額の問題もあるのか，なかなか廟巡りの仕事は引き受けてくれない。やっと女性の運転手に，午後 100 元で，蓮池会及び本主廟を案内しましょうと納得。〕

≪古城南門村≫〕

楊徳仙さん（65 歳・女性）　南門村北村。蓮池会の会員。

タクシーで五分くらいの所に付く。家具の製造販売をしている店先の人に聞く。幸い楊徳仙さんという方が，ここにいて，自分が案内しても良いという。

楊徳仙さんは，白内障を患いその手術で片眼を失明した。一男二女の母である。家を継いだのは娘で，四川省出身の大工を婿とした。自分の家は元来家具材の製造を業としたが，夫は五年前に他界した。土地は道路として国にとられたりして今はない。ここでは呼称として××村といっているが，村ではなく，農村ではないから農地もない。今や街だ。

さてこの地区は，北村と南村に分かれていて，蓮池会も二つある。北村の蓮池会は100人以上の会員数だという。南村の蓮池会は数を知らない。付き合いがないからだ，という。

毎月１日と15日には皆で集まって，念仏をします。一日４元か５元を出して，皆で食事します。これで，一日楽しく食べられる。念仏する時には，4〜5人で集まって，念仏します。食事内容は野菜中心。普段誰かの家に行事があった時には，呼ばれて念仏をするのであるが，その時はご馳走してくれるし，一人当たり５元の現金も貰える。その５元をためておいて，必要な時に，そのお金をうまく回します。農村の蓮池会は貧しいから，Ｉ元というお金は，それなりの価値があるということになる。五元では一日分の食事に足りないが，寄付金を本主廟の賽銭箱に入れているから，そちらから補助を出す。

こちらの本主廟は，昔生産隊と言っていましたが，今は一社二社三社と言いますが，各十数戸のグループで，それが交替で順番に管理人を出す。今はお金を貰えない。昔は交替ではなく，代表として管理人をやったので，60元を貰うことができた。

◉ 廟の仕事はどんな内容か

廟の掃除，蝋燭・線香を立てる。供え物を管理し，一水などを替える。祈りに来た人がいたら，目出度い言葉を言って，代わりに祈ってあげる。直接管理人のお婆ちゃんにあげるというよりは，賽銭箱にお礼の気持ちとして入れればよい。金額は気持なので，いくらでも良い。決まりはない。

願いに来る人がいれば廟を開けるが，いなければ錠前を掛けておく。
目出度い言葉，お辞儀等儀式のやり方，十月十五日には，お参りするが，本主廟での正式の唱え方は知りません。

◉ 代表の決定法（この地区ではどのようにして決定するのか）

例えば，第一生産隊にお婆ちゃんが十人いるとしたら，その中で，二人一組で，順番に代表になるように実施していく。誰か一人に決まっているのではなく，全て順番にやる。全て順番にやるので，お手当はない。

◉ 本主様の名は，……（ここで初めて，今まで話してきた内容は，リーダー寺という寺の話でした，と分かる。順番で見に行くのは寺のことであった。本主は別だと。）

本主は北村南村で一つしかない。本主は南門村にある。で，北と南が交互に管理人を出す。今は北門村の 80～歳のお婆ちゃんが管理人をしている。なぜこの人になったのかというと，年配の方で，いろいろわかる人が良い，ということから。楊徳仙さんのように若い人では，やり方が上手ではないし，相応しくない。いろいろやれる人が選ばれて本主廟の世話をする。今現在，廟を見ている人は，80～歳の人は給料がもらえる。いくらかは知らない。金額は分からない。南村北村は一年交代で儀式の主催をやります。蓮池会は仏教関係ですから，本主廟というよりは，お寺仏教とより深くかかわっているようです。そこで，すぐ思いついたのがリーダー寺で本主廟ではなかったのである。

◉ お参りしたいと思うのは，どういう場合ですか

本主の誕生日の縁日にお参りする。家の新築，子供が大学受験した時，家族が誰か病気になった時，そういう折に本主様にお参りします。何処でも同じように，願いを代筆してくれる廟の人に伝え，それを紙に書いてもらい，例の紙の四角柱に封入し，それを燃やす。基本的には家族全員の無病息災，子供の健康，仕事が順調に行きますように，外に出た子供たちが元気に帰れるように，等と祈る。

≪地蔵寺≫に案内される。

この家具屋の前の通りから，徒歩で 7～8 分。老年会の看板が上がっている。ここで，勉強したり，麻雀したり，トランプしたり等老人たちは憩いの時をもっています。二階で麻雀やっていますね。実は寺は，老人協会が使っている。老人の集まる場所となっている。寺と言いながら，坊さん，僧はいない。リーダースー（寺），→→地蔵（ジーダー）・寺（スー）。ジーダーor リーダー？？？と発音する。

ヂィーダー→地蔵 Ti↗da↘ー，ですね。

楊徳仙さんに案内され徒歩 10 分ほどで地蔵寺に着く。

20 万元寄付金集めて頂き感謝する。蓮池会がお金を集めて南相房を作った。お寺ですから，この村の死者の名前を刻んだ位牌があります。この場で，念仏したりする。李紹波は代表だから 15.6 万元出した。残りを皆が出した，とい

うことだ。

廟の石碑に蓮池会のことが刻まれていた。曰く，

我が北村蓮池会は，2010年に南相房を改修した。李紹波老板は，自ら代表（ボス）として建築を請け負い，建房に総額20万元の費用がかかった。しかるに，蓮池会は15.6万元しか払うことができなかった。老板（ボス）はその残額を請求しなかった。我々は衷心より感謝するものである。事業の完成を祝うものである。

隣には，「北村蓮池会2010年改建南相房功徳碑」があり，李紹波老板が20万元で引き受けたこと，蓮池会では，15.6万元しか集められず，4.4万元を助けてくれた事が書かれている。

また，北村老協会も5000元を助けてくれた。その助けてくれた人と金額を記せば，以下の如し。

竹渓酒店600元，あるいは個人で600元を出している人もあるが，ほとんどが200元である。又，援助の組は，6，7，8，9，10，11，14で，12組と13組はない。なにか事情があるに違いない（組とは生産隊の事）。

なお，老協会として10人ほど，他の地区の蓮池会だろうが，16人の名が挙げられている。

金額の確認は以下のようになっている。

6組，7949元　7組，7340元　8組，5045元　9組，5300元
10組，8240元　11組，4660元　14組，2840元

公元二零一一年六月

と日付が記されていた。

老年人活動中心を建て，地蔵寺を再建した。その協力に感謝するという碑あり。

65.863元の費用がかかったと記されている。その完成年度が，1993年10月1日となっている。他地区でもこういった記念的建物が，多くこれらの年号周辺の年度に建てられたり，建て替えられたりしていることに注意が必要。社会の大きな変化がこの背景にあるのである。

その主体を「大理城邑郷南門北村老年協会」と記していた。「捐資単位个人名単」に，

北村蓮池会　……第十四社　第十一社　第十社……第六社　……城隍廟
南門村聯廠　南門村老協会　……大理四建公司　王渓蓮池会　普賢寺

等々とあり，地域だったり，会社だったり，寺だったり，実にさまざまな立場で，ここに寄付していることがわかる。そのような理解，経済社会状態であることを示している。

又，「塑佛功徳碑」がある。寺，廟，塑像など作らなければならない事情がここにあるということだ。その前までに何が起こっていたかをよく示している。この「塑佛……」の金額を見ると 50 元，60 元，100 元といった金額だ。寄付者の心が見えてくる。「永垂千秋」という下欄外に記された言葉の意味が重く伝わってくる。

「娯楽園」が設置され，いわば子供の遊びの場であり，大人の麻雀社交の場としてもここが活きていることを示している。時に施設が子供の学習の場となっていたりする。

「重修地蔵寺記」なる碑もある。「地蔵寺は大理城南寺前に在り。……高僧の説法があった等」記される。「老年増輝」等とも刻まれている。掲げたのは，北村老協会だ。「大理鎮農村宴席」なる建物も。入口門の上に「南門村委会北村老協分会」と記され，反対側の門の上には，「地蔵寺」と扁額がある。で，寺の方の門は固く閉じられ，開けた形跡がない。人々は，「……老協分会」側の門から出入りしている。そして，その「……老協会」入り口側には，本主の竈を焚いた跡が炭黒々と付いていた。

「光栄之家」なるプレートあり。ここは緑玉小区であった。

●この廟の張先生の通訳による聞き書き

本主廟に移動。

「文昌大殿」この看板で初めて絵を描いた人の名が出た。農民画家というのは，名前を名乗らないのを常識とする。つまり農民画家とあるだけで名前がサインされていない。ところが，「彩画　三文筆村　楊勁松」とある。

横書きの「育化〇民」との扁額が挙がり，学の右端，縦方向に「文昌帝君殿下」「〇下弟子」として，下欄横に 29 名ほどの人名が並ぶ。最後に「仝〇故」とある。日付は縦書きで「公元一九八九年〇位〇巳二月吉旦」と左端に縦書きで記されている。

次は「重修文昌大殿及厨房」の扁額。その文に曰く，

開工 ” 丁丑年二月初八日

竣工 ” 丁丑年七月初十日,
造主 ” 趙玉蘭　楊桂芳
拐星功徳 ” 三千零七拾元正
集資 ” 三万七千七百元正
総集資 ” 七万零七百七拾元正
総造価 ” 七万零七百七拾正
施工 ” 上鴎邑楊利栄組
彩画　三文筆村　楊勁松

次に,「文衡独運」の扁額。本殿に掲げられている。この扁額の下に,小さな文字が書き連ねられているが,それは判読できない。扁額の下に垂れ幕のような布が下がり,上段にややユーモラスな,向かい合う龍の図,下段に９人の人の様々な動きが描かれる。動物に乗った姿,鳥に乗った姿など興味深い。実にカラフルである。

この廟の右側に「中国共産党大理鎮南門村　南村支部委員会」と「南門村委会南村老年協会」とが同居している。緑玉昌小区だ。

「大理古城南門老協会立」とあって,水色も鮮やかに「本主廟」とある。辛巳年六月十四日にこの扁額を上げた事が刻まれ,この額の揮毫者,「九十一歳馬碧出　書」とある。

廟の額に,「主恩勝海」とある。

とてもよく清掃整備された廟の建物内部で,心が洗われるようだ。叩頭する布団の前に灯りが点り,それは油に芯を付けた形式であった。この廟では,一般にみられる中国的猥雑さ,雑然とした印象が見られない。

本主廟の管理人は任期５年。楊葵英さん（81 歳・女性・北村蓮池会代表）は,蓮池会から任されているのであるが,一期目は５年だった。で,南村の番になったので,５年間退いていた。このたび北村の番になったので,とても皆さんの評判が良く,100 人の中から選ばれ,再任されたとのこと。本主に仕えているので,病気一つしたことがない。薬も飲んだことがないと（案内のおばあちゃん楊徳仙さんと管理人楊葵英さんと記念撮影)。

廟の内陣に入る手前の敷居の上に,「恩澤南無」の扁額あり。その右端に縦書きで,「沛恩景帝」。左側の天井近くに,「竣工碑」が掲げられ,曰く,

本主廟
子孫廟

重建干一九九九一月吉日
竣工干一九九九六月吉日
上鴎邑古建隊楊利栄
組施工
三文筆村楊勁松彩画」

とあった。

この廟の神は「沛恩景帝」。

≪南門村委会玉渓村老協会≫

ここで，初めて廟に祀られた毛沢東をみた。マントを身につけて，威風堂々である。ただ像は40～50センチの背丈で，そう巨大ではない。毛さんもついに神様になった。と感心。そういう時代になったのかと。

「文衡独運」の扁額懸かる。右が「文冠古令」，左が「飛鸞開花」との扁額。建築の経過を次のように記す。曰く，

建築単位玉渓村文昌宮
施工単位上鴎邑古建隊楊利栄組
開工日期公元一九九八年六月
竣工日期公元一九九八年十月立

とあった。

●「玉渓村蓮池会弟子歴代亡人之香位」←「祖徳流芳」と上の飾りに書かれ，縦の欄に左のタイトルが入っている。

「玉渓村文昌宮修造碑」

いわゆる寄付名鑑。

≪文昌宮修造碑≫

協力したのは，

玉渓村蓮池会700元，玉渓村老協会300元，月渓村蓮池会180元，南門北村蓮池会50元，南門南村蓮池会160元，東岳宮蓮池会160元，南門北村老協会150元，南門南村老協会100元，南門財神殿50元，大理蒼山電線廠20元，

个人捐資；（個人寄付）

≪月渓村本主廟重修碑記≫

「月渓村本主廟は一九二五年地震後，この地に逃れ，」

≪月渓村本主簡介≫

中央本主の段宗牓の南詔国時代の伝説あり。

伝説によると南詔国時代には，とても良く治めていた段オンペイという人がいました。南詔国の大将です。中央本主，段宗牓の親戚です。官人としては，とても清らかで清廉で，民を子供のように愛して，百姓の中には，とても人望が高かったのです。段聖政と言われました。時に大理盆地では三年間旱魃で一滴も雨が降ってこなくて，民たちはどうも生きていけないところですが，段氏は心が重くて，雨が降らないことを心配し焦っていたところ，ある夜に一つ夢を見ました。夢の中で白髪の老人がこのように話しました。百姓を苦から救うためには，竜王廟に行って雨乞いをしてください。一つの桶を持って行って，竜王廟から一桶の水を汲めば，家に帰る途中では後ろを振り向かないで，瓢箪に入れた水を後ろに向けて三回ふりまけば，雨が降ってきますよ，といった。沢山水をかけすぎないように。三回だけですよと，その老人は言った。その通りにしないと自分の命にも関わりますよ。危ないですよ，と。その夢に見た老人の教えのように，竜王廟に行って一桶の水を汲みました。歩きながら，瓢箪の水を一つ降りかけました。見る見るうちに空は黒い雲がこんこんと走ってきて，もう一度水を降りかけると，稲妻や雷がごろごろと鳴って，さらに歩きながら，三回目水を振りかけると，大雨になりました。しかし段さんは民のために，沢山の雨が降って来るように，桶の中の水を全部まけてしまいました。すると台風になって，豪雨になりました。段さんは急いで走りましたが，玉渓村に到ると，雨に降りこめられ倒れてしまいました。村人は彼を見つけて村の漢方医の所に連れて行きました。

その日は旧暦の六月六日のことでした。人々はこの段さんの，功績を記念するために，そして毎年毎年風雨長寿？？になるために，玉渓村，月渓村の両村は，段さんを両村の本主として祀っています。六月六日は本主節として，祀ります。その後，南門の村は，段さんのことを知って，一玉渓村で病気治療をしてもらっていることを知って，その御恩に報いるために，段さんを南村に迎えて行って治療させました。しかし段さんは病気が重くて，治ることなく旧暦六月十四日にこの世を去りました。段さんを記念するために，南門村も，段さんを自分の本主として祀った。南門村の本主会の縁日は六月十四日であると。死

後段公は五百真王の中では，玉局慈景帝という風に称されました。

2005年4月竣工，この廟は鶴の意匠が印象的。

「位尊六府」の扁額あり。
天井絵に，「仙女散歌　乙酉年春分」がある。花を頻りに撒いている図。
「威神施主」の扁額あり。「本主廟重修落慶」とあり。「公元二〇〇五年」。この額を上げた「邑人　張××，李澤蘭,」。「重建　本主民　心旺　旧貌　変新寺　××　公元2005年　酉年四月」
「六鶴迎春　乙酉年二月十二日」

老年協会の館は，皆麻雀である。娯楽施設になったというわけだ。僧は何処に行ったのであろうか。
16:13　本日・本年の廟巡りは終了。